

大正九年十月十日



長尾彦平

長尾彦平

長尾彦平

婦人及児童賣買禁止ニ関スル調査聯盟

送付ニ付テ問題ノ件

本件ハ紙外務次官署名ニ對シテ社会局ニ於テ

取違ハ四卷ノ趣ニ付取會事ノ項中ハ公娯廢

止問題ニ関シテ左記ノ通社台有、ト送

可後分

記

一
一

公娼制度、存在ハ道義上及國家、体面上
極ナリ望ミコシカラス所ナリトモ現下ノ國情
ニ徴シ今漸ク之ヲ禁止スル能ハルヲ以テ風
化及衛生上行政官在、表重ク監視ノ
下ニ當テ之ヲ存置スルハ公ヲ得ル状態
ニ在リトモ身ノ賣買ノ日時トモ行為ノ明治五
年ニ於テ官布告第二九十九號ヲ以テ風化之ヲ禁
スル所ニテ現行公娼制度ハ全ク之ヲ無クシ
十八歳以上ノ婦女ニシテ娼妓トシムトモ本人
自ラ賣置テ官置、出戻シ娼妓トナル事由
尊族親戚等ノ承認、事度具シ他若キモ
事項ヲ具シタル書面ヲ提出シテ申請ヲ為シ書
察官置ニ於テハ表密査査シテ、所遺ヲ遂テ具

事情ニ於テ公ヲ得サレモ之限リ之ヲ娼妓在
簿ニ登録シ之ヲ操業ヲ許スルモ之ヲ代
止禁禁業モトシ、同一人身ノ自由ヲ拘束ス
ルハ契約ヲ許スルモノニテ長シ娼妓ニシテ
業セムトモ場合ニ於テハ本人自ラ賣置テ官置
ニ出戻シ又其ノ出戻スル能ハル情在ニ於テハ
書面等ヲ以テ登録ノ前際ヲ申請セバ業
察官置ニ直ニ名簿前際ヨリ之ヲ削除スルコトト
為セリ而シテ此ノ名簿前際ノ申請ニ對シテ何
人トモ之カ妨害ヲ為ス能ハズ之ヲ娼置ス
ルニ於テハ内務省モ三月以下ニ懲役又ハ
百圓以下ノ罰金ニ處スルコトト為シ其ノ他娼
妓ノ通信而接等、自由ヲ妨害スル者ニ

對ニシテハ 爲合中 制裁ノ規定ヲ設クル所アリ
要スルニ公認ハ 我國領下ノ狀態ニ於テ之ヲ
汎ルルニ已ムヲ得セルモノニシテ 又之ヲ汎ルルニ
人身ノ自由ヲ拘束スルニ斷ルニ之ヲ容テズ
ニ保テ去テ置ル事ニ實ニ堪ヘズトシテ 禁ルル所
ナリトス

寓

通三^送第四四一號

大正九年九月十一日

外務次官 埴原正直

内務次官 小橋一太殿

第一回國際聯盟總會・於ケル婦人
及兒童賣買禁止ニ関スル問題ノ件
来ル十一月開催セラルルハキ第一回國際聯盟
總會・於テ婦人及兒童ノ賣買禁止ニ関ス
ル問題(同盟及聯合國ト独逸國トノ平和條
約第二十三條参照)ノ議セラルルコトアル場
合若シ我國ノ本件ニ関スル既存條約加入

裏面白紙

我國ノ妓樓制度ハ人道上及國家ノ体面上極メテ整マシカラサルハ
言フ俟トサルノミナラス 妓樓制度ノ存存ノ到底私娼ノ跋扈ヲ
防止スル能ハル風俗及衛生上現狀ニ放任スルハ甚メ不可ナルヲ以
テ政赤等ニ行ハル、査録制度等ヲ参照シテ適宜ノ方術ヲ調査シ
ソ、マル旨ヲ説明スルノ必要アリト認ム
遊廓ノ新設ヲ許可セザル方針ニテトテ明ニスルノ必要アリト認ム

衛生局



問題公娼廢止問題又ハ海外ヨリ送還セラルル醜業婦ノ保護問題カ議題トナラハ我邦ハ之ニ對シ如何ナル態度ヲ持スハキヤニ関シ豫メ貴齎ノ御意見承知致度候條右詳細至急御回答相成度此段及照會候也

追テ本件既存條約ニハ千八百九十年ノコラセ此條約及同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第百八十二條及十七項記載ノ條約ナリニ付為念申添候也

（奉）

同盟及聯合國ト共ニ平和條約

第百三十三條 聯盟國ハ現行ノ平和條約ニ七十九

年同盟條約ノ規定ニ準ジ由ニ

(一) 是

(二) 是

(一) 婦人及兒童ノ賣買並河片其他ノ有實ノ藥物ノ取引ニ關スル取極ノ案

行ニ付一般監視ヲ聯盟ニ委託スルニ

スルニ

第百三十三條 本條約ノ別條ノ規定ニ協合スル

外經濟上ノ專門事項上ノ性質ヲ有スル

數回別ノ條約及取極ノ本條以下ノ規定ニ別記ス

シム、
事國タル同盟及聯合國ト、
施、時ヲ三ツニ適用ス

(一) 三月(十六) 日

十七 醜業ヲ行ハルニ爲、婦女モ賣禁止

〇列スル千九百四年五月十日及千

九百十年五月十日、條約

魯古古以... 社... 六... 北洲...

醜業婦輸入、取締ニ関スル千九百

四年五月十八日條約

独逸國、丁抹國、西班牙國、佛蘭西國、大不
列顛國、伊太利國、露西亞國、瑞典國、那威國
及瑞西國、千九百五年一月十八日、白耳義國
千九百五年六月二十二日、葡萄牙國、

千九百五年七月十二日ニ合衆國ハ千九百
七年一月十四日ニ本條約ノ批准書ヲ巴
里ニ寄托シ千九百五年七月十八日ヨリ之ヲ
實施シタリ

第一條 各締盟國政府ハ外國ニ於テ醜業
ヲ營マシメントスル婦娘ノ傭入ニ関スル一切

ノ材料ヲ蒐集スルキ一種ノ官憲ヲ創立
若クハ指定スルコトヲ約束ス、右ノ官憲ハ
他ノ各締盟國政府ノ創立シタル同種ノ官
憲ト直接ニ交渉スル權能ヲ有スルシ
第二條 各締盟國政府ハ醜業婦ニ用ヒ
トスル婦娘ノ誘導者ヲ殊ニ停車場、上

陸港及旅旅行中ニ於テ搜索スル為メ
監視ヲ行フコトヲ契約ス

右ノ資格ヲ有スル官吏若クハ其他ノ
者ニハ右ノ目的、為メ法定ノ國境內
ニ於ケル犯罪的取引ノ踪跡ヲ知ラシ
ムヘキ諸材料ヲ收得セシムル為メ訓

示ツ與フヘシ

此取引ノ主謀者、共犯者若クハ其犠牲
者、觀アル者、到着ハ必要ナルトキハ
行先地、官憲又ハ關係、公使館員若
クハ領事館員又ハ其他、主務官憲ニ
通告スヘシ

第三條 各締盟國政府ハ必要アルトキハ
法定ノ國境內ニ於テ醜業ニ従事スル
婦娘カ其身分及戸籍ヲ証明スル申
告書ヲ受理セシメ何人カ彼等ヲシテ
生國ヲ去ラシメタル乎ヲ調査スルコト
ヲ約束ス、蒐集シタル材料ハ隨時婦

娘ヲ帰國セシムル為メ其生國ノ当該官
憲ニ通告ス

締盟國政府ハ若シ犯罪的取引ノ犠牲
者カ全ク資力ヲ有セサルトキハ法定ノ國
境內ニ於テ為シ得ヘキ限り該犠牲者
ヲ帰國セシムル為メ假ニ彼等ヲ公設若

クハ私設ノ救濟機關若クハ必要ナル
担保ヲ提供シタル個人ニ依托スルコトヲ
得

又締盟國政府ハ右ノ婦娘中帰國ヲ
請求シ若クハ其身上ニ權威ヲ有スル者
者ヨリ要求シタル婦娘ヲ法定ノ國境

内ニ於テ為シ得ハキ限り其生國ニ送還
セシトテ約束ス其帰國ハ本人ノ身上及
其國籍並ニ國境ニ到着ノ期日及場所ヲ懷
議シタル後ニアラサレハ為スハカラス各締盟國
ハ其領土内通過ノ便ヲ與フヘシ帰國ニ関
スル通信ハ可成直接ニ為スヘシ

第四條 滯國セントスル婦娘カ其帰国旅
費ヲ償還スルヲ得サル場合及彼等ノ
為メ之ヲ支拂フヘキ夫父母若クハ後
見人アラサル場合ニ於テハ帰国ノ為メ
要スル諸費ハ最初ノ国境若クハ生國ノ
方向ニ在ル乗船港迄ハ彼等ノ住居

シタル國ノ負担トシ其餘ハ生國ノ負担ト
ス

第五條 第三條及第四條ノ規定ハ締盟
國間ニ於テ締結セララルヘキ特別條約ヲ
除棄セサルヘシ

第六條 締盟國政府ハ法定ノ國境内ニ

於テ可成外國ニ婦娘ノ職業ヲ紹介スル
事務所ヲ監視スルコトヲ約束ス

第七條 締盟國外ノ諸國モ本條約ニ加
入スルコトヲ得、シモカ為メニハ右ノ諸國
ハ外交官ヲ經テ其意思ヲ佛蘭西政府ニ
通告スヘシ同國政府ハ其旨ヲ締盟諸

國ニ通知スヘシ

第八條 本條約ハ批准交換ノ日ヨリ起算
シ六ヶ年月ヲ經テ實施ス、締盟國中ノ
一國カ本條約ヨリ脱スルモ其脱退ノ効
カハ右ノ一國ニ止リ脱退ノ日ヨリ起算
シ十二ヶ月後タルヘシ

第九條 本條約ハ可成速ニ批准ヲ經其

批准書ハ巴里市ニ於テ交換スヘシ

千九百四年五月十八日巴里市ニ於テ調

製シタル原本一通ハ之ヲ佛蘭西共和

國外務省ノ文庫ニ保存シ其謄本一通

ヲ証認ノ後各締盟國ニ交付ス

醜業婦ノ取締ニ関スル千九百十年五月四日

國際條約

下記ノ諸國ノ君主、國首及政府ハ一名「醜業婦賣

買」ト称スル其取引取締ノ効力ヲ可成完全ト

ラシムシコトヲ希望シ特ニ少カ為メ一種ノ條約ヲ

締結センコトヲ決議シタリ而テ千九百二年七月十

五日乃至二十五日間巴里市ニ開催セラレタル第一回會議ニ於テ條約案ヲ決定シタル後全權委員ヲ指定シタリ因テ該委員ハ千九百十年四月十四日乃至五月四日間巴里市ニ第二回會議ヲ催フシ下記ノ規定ヲ議定シタリ

第一條 何人ニ拘ラス他人ノ情慾ヲ満足セシ

ムル為賣淫セシムル意思ニテ未丁年ノ婦娘ヲ傭入レ誘引若ハ誘惑シタル者ハ假令本人ノ承諾アルモ又犯罪構成ノ要素タル各種ノ行為カ他國ニ於テ遂行セラレタルトキト雖トモ処罰セララルヘキモノトス

第二條 何人ニ拘ラス他人ノ情慾ヲ満足セシ

ムル為メ賣淫セシムル意思ニテ詐偽、
暴行、強迫、權勢、其ノ他強制的手段ヲ
以テ未丁年ノ婦娘ヲ傭入レ誘引若ハ誘
惑シタル者ハ假令犯罪構成ノ要素タル各
種ノ行為カ他國ニ於テ遂行セラレタルトキト
虽トモ処罰セララルヘキモノトス

第三條 現ニ各締盟國ノ法規カ前二條ニ規定

セラレタル犯罪ヲ処罰スルニ足ラサルトキハ締盟國

ハ各々自國ニ於テ其犯罪ノ輕重ニ從ヒ処罰ス
ル為メ必要ナル処分ヲ定メ若ハ之ヲ立法府
ニ建議センコトヲ約束ス

第四條 締盟國ハ本條約ノ目的ニ関シ自國ニ

於テ現ニ行ハレ若ハ今後行ハルヘキ諸法律ヲ
佛蘭西共和國政府ヲ經由シ互ニ通告スヘシ

第五條 第一條及第二條ニ規定セラレタル犯罪ハ
本條約實施ノ日ヨリ既ニ締盟國間ニ成立セル條約
ニ從ヒ送還セララルヘキ犯罪數中ニ記入セラルヘキ
モノト看做スヘシ

現行ノ法規ヲ改正セラレハ前記ノ規約ノ効力ナ
キ場合ニ於テハ締盟國ハ必要ナル処分ヲ定メ若
ハ各自ノ立法院ニ其處分ヲ建議センコトヲ約
束ス

第六條 本條約ニ規定セラレタル犯罪ニ関スル
相互ノ裁判依托狀ノ移送ハ左記ノ方法ニ依

リ行フヘシ

一 双方、司法官憲間ニ於テ直接ニ通告スルコト

ニ 受托國ニ在ル依托國、公使館若クハ領事館ヲ經由スルコト

(右兩個ノ場合ニ於テハ裁判依托状ノ謄本

ヲ必ス受托國、上級官廳ニ送達スヘシ)

三 國際的手續ニ拠ルコト

各締盟國ハ他、各締盟國ニ通知書ヲ送り

前記ノ移送方法中締盟國ヨリ来リタル裁

判依托状ニ就キ採用シタル移送方法ヲ知

ラシムヘシ

本條第一及第二、場合ニ於テ移送_レ基_レ際
ニ起ルヘキ紛議ハ國際的_ニ手續ニ依リ決定
セラルヘシ

反對、協議ヲ除キ裁判_ニ依_テ托官
憲ノ國語ヲ以テ調劑_シ又ハ兩關係國間ニ
於テ協約ニタル國語ヲ以テ調劑_シ又ハ談

狀ニ兩國語中其一ノ反訳書ヲ添付_シ依_テ托
國ノ外交官若クハ領事館員若ハ受_テ托國
ノ反訳審判員_ニ之ヲ証認スヘシ
裁判_ニ依_テ托狀、執行ハ何等ノ手数料若
ハ費用、償還ヲ要セス

第七條 締盟國ハ本條約ニ規定セラルタル

犯罪ニシテ其犯罪構成要素カ他國ニ於
テ遂行セラレタルトキハ互ニ其判決状ヲ通
知スルコトヲ約束ス

右ノ書類ハ千九百四年五月十日巴黎市ニ於テ締結
セラレタル條約第一條ニ後ニ指定セラレ官憲ヨリ他
ノ締盟國ノ同種ノ官憲ニ送致スヘシ

第八條 本條約ニ署名セサル諸國モ之ニ加入

スルコトヲ得特ニ該諸國ハ之ヲ為メ申込書
ヲ以テ其意思ヲ佛蘭西共和國政府ニ通告
シ其申込書ハ同國政府ノ文庫ニ保管ス
共和國政府ハ外交的手續ヲ經テ申込書
ノ謄本ヲ証認シ上各締盟國ニ送附シ同時

ニ申込書到達ノ日ヲ知ラシムヘシ、本條
約ノ目的ニ関シ加入國ニ於テ制定シタル
法律モ亦該通知書ヲ以テ通告スヘシ
通知書到達ノ日ヨリ起算シ六ヶ月ヲ
經過シタルトキハ本條約ハ前述ノ如ク
締盟國トナリタル加入國、全土ニ施行

スルモノトス

本條約ニ加入シタルトキハ假令特別ノ
通告ナキモ加入國ノ全土内ニ本條約ト同
日ニ^施実^行セラルヘキ千九百四年五月十八日ノ協
約ニモ当然同意シタルモノトナルヘシ
然レトモ前項ノ規定ハ一國カ單ニ千九百

四年五月十八日、協約ニ加入セント欲スル場
合ニ適用セラルヘキ同條約第七條、除外
例トナラス

第九條 本條約ニ出ト離ルヘカラサル國際
會議々事録ヲ添ヘ批准ヲ經ヘキモノ
トス而テ其批准書ハ締盟國中六箇國ニ於

批准ノ手續ヲ為シタルトキハ巴里市ニ寄托ス
ヘシ

批准書ノ寄托ニ就テハ調書ヲ調製シ其騰
本一通ヲ証認ノ上各締盟國ニ交付ス

本條約ハ批准書寄托ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經テ
實施ス

第十條 締盟國中其一國カ本條約ヨリ退脱
セシ場合ニ於テハ其退脱ハ右ノ一國ニ對スル
ノ外効カナキモノトス

退脱ハ書面ヲ以テ申込ニ其書面ハ佛
蘭西共和國政府ノ文庫ニ保管ス、同國政
府ハ其謄本ヲ証認、上國際的手續ヲ經

テ各締盟國ニ送付シ之ト同時ニ退脱申
込書寄托ノ日ヲ通知スヘシ

右ノ日附後十二ヶ月ヲ經タルトキハ退脱シテ
ル國、全土内ニ於テ該條約ノ施行ヲ停止ス
本條約、退脱ハ其申込書ニ特ニ明記セ
サル限りハ之ニ附帶スル千九百四年五月十八日

協約ヨリ当然脱退シタルモノトナス、締盟
國カ該協約ヨリ脱退スル為メ、該協約
第八條、手續ニ從フヘシ

第十一條 締盟國、一國カ一個若クハ數個ノ植民
地、租借地若クハ領事裁判管轄区内ニ本
條約ヲ施行セント欲スルトキハ該國ハ特ニ

申込書ヲ以テ其意思ヲ佛蘭西共和國政
府ニ通知シ該申込書ハ同國政府^ノ保管ス
共和國政府ハ國際的手續ヲ經テ其騰本ヲ
証認、上各締盟國ニ送付シ之ト同時ニ申
込書寄托、日ヲ通知スヘシ
右、殖民地、租借地若クハ領事裁判管

轄區域内ニ於テ本條約ノ目的ニ関シ制定
セラレタル法律ハ右ノ申込書ヲ以テ通知スヘシ
今後制定セラルヘキ法律モ亦第四條ニ從
ヒ各締盟國ニ通告スルヲ要ス
申込書寄托ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シテ
ルトキハ本條約ヲ申込書^明記セラレタル

植民地、租借地若クハ領事裁判管轄區
域内ニ施行スヘシ
要求國ハ各締盟國ニ告知書ヲ送リ本
條約第一項ニ規定セラレタル申込ノ目的
トヤリタル植民地、租借地若クハ領事
裁判管轄區域内ニ向テ差立ツヘキ裁

判依托状移送、手續ヲ各締盟國ニ
知ラシムヘシ

締盟國中、一國カ一個若クハ數個、植
民地、租借地若クハ領事裁判管
轄區域ヲ本條約ヨリ脱退セシメントスル
トキハ本條第一項ニ規定セラレタル手續

及條件ニ從フヘシ、右ノ脱退ハ佛蘭西共
和國政府ノ文庫ニ脱退申込書ヲ寄托セ
シ日ヨリ十二ヶ月ヲ経テ効力ヲ生スルモノ
トス

締盟國、一國カ一個若クハ數箇、植民地
租借地若クハ領事裁判管轄區域ヲ

本條約ニ加入セシメタルトキハ特別ノ通告ヲ為サ、ルモ当然之ニ附帶シ全ク千九百四年五月十八日ノ協約ニ加入シタルモノトナルヘシ、本協約ハ植民地、租借地若ハ領事裁判管轄區域内ニ於テハ本條約ト同日ヨリ施行ス、然レトモ

締盟國ノ一國カ一箇若ハ數箇ノ植民地、租借地若ハ領事裁判管轄區域ヲ本條約ヨリ脱退セシムルモ其通告狀ニ明記ナキ限リハ之ニ附帶シ千九百四年五月十八日協約ノ脱退ヲ伴ハサルモノトス、且千九百四年五月十八日協約ノ署名

國カ各自、植民地ヲシテ該協約ニ加入セシムル為メ發シタル一切、申告書ハ其終ニ保存ス

然レトモ本條約ノ實施後ニ至リ條約國カ其植民地、租借地若クハ領事裁判管轄區域ヲシテ本協約ニ加入

若クハ脱退セシメントスルトキハ本條ノ規定ニ從フヘシ

第十二條 本條約ハ千九百十年五月四日ノ日

附ナルモ釐醜業婦賣買ノ取締ニ関

スル第二回ノ會議ニ代表者ヲ出タセシ

諸國、全權委員ハ七月三十一日ヲテ巴里

市ニ於テ該條約ニ署名スルコトヲ得
千九百十年五月四日巴里市ニ於テ原本一
通ヲ調製シ其騰本一通ヲ証認ノ上
各條約國ニ交付スルモノナリ

警 三第四五號

大正九年十月二十九日

内務省警保局長

廳府縣長官殿

為替付他具物取扱ニ関スル件通牒
本件ニ付三重縣知事ヨリ別紙ノ
通り申報有之其間申參考
スルニ寫差進候也

二二